

## 平成 30 年新春初出式

八木 順一

新しい一年の活動が始まった。しかし、この冬一番の冷え込みになり、サイトも霜で真っ白になった。それでも 70 名が元気に集合。特に朝は永年継続会員記念植樹、昼は初出式が予定されたため、サイトは、ばたばたの状態が続く。しかし両行事とも無事に恙なく終わり「さあ今年も頑張って活動しよう！」といった凜として希望に満ちた雰囲気、会員の間に流れるのが実感できる。

初出式では例年のように餅つきを多くの会員が順番に行く。特に最初のうちは元気に杵を持ち上げ、勢いよく臼に振り下ろしていた会員も、最後



には腰も定まらず、ふらふらの状態が続く。誰もが「今からウン 10 年前には 10 や 20 個の餅はどうってことなかった」という思いも、本当に今は昔話になってしまったようだ。しかし、それでも無事に餅は搗きあがり、おいしい黄粉餅やおろし餅に変身。会員の



驚くほどの食欲の前に次々と消えてゆく様子は壮観だ。この日一日でもち米八升、四臼の餅が搗かれた計算になる。最後には、ならやまで採れた七草を使ったかゆや甘酒までが登場。満腹になった参加者の お口直しになったのではないだろうか。



## 永年継続会員 記念植樹式

水本 遼真

「あなたが『奈良・人と自然の会』に継続 10 年在籍した証の記念植樹をします」と会長から出席要請のメールをいただき、電話までくださり恐縮した。「出席します」と返事したが、今朝は、さすがに冷え込みが厳しく、躊躇した。

「実りの森」の山畑で、10 時より会員の見守る中、辻本事務局長がセレモニー進行、久しぶりに辻本さんの元気な声を聴く。

畑の西側の日当たりのいい場所に、用意された紅白のテープを巻いたシャベルを使い、高さ 2m くらいの「富有柿」1 本の苗木を植樹した。

その後、阿部顧問により、手際良く支柱が立てられ、結束し仕上がり、植木職人もかくやと思われる出来栄えとなった。



同時に、用意されていた、今日の植樹式主客 4 名の名前を刻んだ銘板（耐久

性のある栗の板）を吊り下げた。

余談だが、3~4 年前の夏、暑い日、ここで伐採した杉の丸太を、製材所へ搬入するため、業者のトラックに積み込む作業を、阿部顧問、藤田前会長と手伝った。

大して働いていないのに、暑さで、汗まみれになり、バテ気味になりかけ、休憩時に藤田さんがくれた、冷たい水のおいしかったこと。

諺で、実をつけるのに、桃、栗 3 年、柿 8 年といわれるが、今日植えた富有柿は、すでに接ぎ木してあるので、来年にも実を付けるそうである。

これからは、会のモットーである「明るく、楽しく、無理をせず」に、私には「勝手次第お構いなし」を追加してもらって、この銘板が朽ちるころまで、「ならやま整備」活動に参加できたらいいなと思っている。